

ニューヨークで待望の自転車シェアプログラム citi bike (シティバイク) がスタート (1)

ニューヨーク事務所

5月27日、ソフトウェアの不具合や去年秋にニューヨークを襲ったハリケーンサンディの影響で大幅に延期されてきた自転車シェアリングプログラムがマンハッタンとブルックリンでスタートしました。アメリカでは、ボストン、ワシントン D.C.、デンバー、ミネアポリスなどの都市が既に自転車シェアプログラムを行っています。市内 330 カ所、約 6000 台の自転車でスタートしたニューヨークのシティバイクは、今後、600 カ所、1 万台に拡大され、全米最大規模の自転車シェアプログラムとなる予定です。

シティバイクの仕組み

- 年会員 95 ドル 45 分まで無料
- 7日会員 25 ドル 30 分まで無料
- 1日会員 9.95 ドル 30 分まで無料

※ それぞれ、無料時間を経過すると追加料金が加算される仕組み

年会員以外は、どの自転車ステーションでも、クレジットカードを使って会員になることができます。年会員は、オンラインで申し込み、USB フラッシュドライブのような鍵を受け取り、解錠します。使用後は、どのステーションに返却しても構いませんが、長時間借りると追加料金が傾斜的に高くなるよう制度設計されており、こまめに返却しないと高くなります。これは、限られた台数の自転車をなるべく多くの人に利用してもらうためのインセンティブとして設計されているものです。また、最寄りのステーションや使用できる自転車の有無は、携帯電話のアプリで簡単に検索できます。市民だけではなく、観光客も利用できますが、16 歳以上であることが必要です。支払いは、クレジットカードかデビットカードで行います。

シティバイクの目的と特徴

地下鉄やバスが 24 時間運行し、公共交通機関が十分に整備されているように思えるニューヨークですが、地下鉄は南北に走る路線が主になるため、東西の移動には不便を感じることがあります。今回、そこに新しい選択肢が加わったこととなります。

市の長期計画である PlaNYC にも明記されているバイクシェアプログラムですが、実は市の補助金や税金が全く使われていないのが特徴です。米大手銀行のシティバンクが 4,100 万ドルを出資していることもあり、「シティバイク」と名付けられました。また、マスターカードが 650 万ドルを出資しています。自転車には、citi の企業ロゴが入り、マスターカードの企業ロゴは、自転車ステーションとレシートに入れられています。運営しているの

は、ニューヨーク市をベースとした NYC Bike Share という会社です。これは、ニューヨーク市がオペレーターとなる会社を公募した結果選ばれたもので、親会社は、ボストン、ワシントンの自転車シェアを運営している Alta Bicycle となります。また、自転車とステーションの装置は、ロンドン、モントリオール、ミネアポリスなど同様のものを使用しています。契約は、システムの維持管理、カスタマーサポート、クリーニングとメンテナンスを含んだ 5 年契約となっています。今後生み出されるであろう利益は、ニューヨーク市と本運営会社で折半されることとなっています。



道路脇に設置された Citi バイクステーション



Citi バイクステーションの看板

どう変わる？ニューヨークの自転車事情

自転車の人々の交通手段として定着している日本と違い、これまで、レストランのデリバリーやスポーツタイプの自転車に乗る少数の人たちを除き、ニューヨークで自転車を見かける機会はあまりありませんでした。交通の往来が激しく、クラクションが鳴り響く喧騒の街ニューヨークで、今後どのように自転車が市民の足として定着していくのかは興味深いところです。また、この自転車シェアプログラムを導入するに当たって、ニューヨーク市らしい住民参加の手法が取られているため、次回のレポートにて報告することとします。

(鷲岡所長補佐 和歌山県派遣)